

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス行徳教室			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ~ 2025年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ~ 2025年 10月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階に応じた運動療育を提供している。	一人ひとりの発達状況や特性に合わせて運動プログラムを組み、楽しみながら身体機能や社会性を育めるよう支援している。	運動プログラムを定期的に見直し、発達段階に応じた活動内容をさらに充実させる。
2	保護者との連携を大切にしている。	送迎時や連絡帳、面談を通して日々の様子や成長を丁寧に共有し、家庭での様子も支援に反映している。	保護者への情報発信や相談の機会をさらに充実させ、家庭と一体となった支援につなげる。
3	児童発達支援から放課後等デイサービスまで継続した支援が行える。	成長に応じて支援内容を見直しながら、切れ目のない支援を提供している。	長期的な視点で支援計画を作成し、ライフステージに応じた支援の充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動療育の目的や効果について十分に伝えきれないことがある。	日々の送迎時では時間が限られ、活動のねらいや成長の変化を詳しく説明する機会が少ない。	写真やおたより、面談などを活用し、活動の目的や成長の様子を分かりやすく発信する。
2	職員の専門性向上を継続する必要がある。	発達支援や運動療育に関する知識・技術は継続的な学びが必要である。	年間研修計画を作成し、事業所内研修や外部研修への参加を継続する。
3	地域や関係機関との連携をさらに深める余地がある。	保育所や幼稚園、関係機関との情報共有の機会に差が生じていることがある。	保護者の同意のもと、関係機関との情報共有や連携を積極的に行い、一貫した支援につなげる。